



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第12号

発行日 2010年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内

TEL 0952-23-1253

FAX 0952-25-5700

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/>

編集者 宮原義幸
代表者



ごあいさつ

国立大学法人佐賀大学 学長 佛淵 孝夫

明けましておめでとうございます。

昨年10月1日付けで国立大学法人佐賀大学学長を拝命しました。佐賀大学は法人化後6年目を迎え、様々な改革が進行しています。法人化後、各大学の自主性を謳いながらも6年間の中期目標・中期計画とその実行が義務付けられ、さらにすべての大学に「大学機関別認証評価」を受けることが義務付けられています。その内容は大学の目的に始まり教育研究の実施体制、教員及び教育支援者、学生の受け入れ、教育内容及び方法などから財務、管理運営まで事細かに調査が行われています。これまで聖域として外部からの干渉を受け付けなかった大学の文化から考えると、まさにわが国の大学制度始まって以来130年ぶりの大改革ではないかと考えています。

ご承知の通り、高等教育におけるわが国の支出はOECD（経済協力機構）加盟28か国中GDP比では最下位です。財源の裏づけもないまま、教職員に成果を求めるのはつらい立場ですが、それぞれの大学間の競争は始まっており、文部科学省からの運営費交付金すらその成果に応じて配分されることになっています。もちろん私立大学と比べるとはるかに恵まれていることはいうまでもありませんが、欧米先進国との競争を考えると不安は拭い去れません。

また、地方の国立大学法人のうち附属病院を持ついわゆる中規模総合大学においては全予算に占める病院収入は大きく、佐賀大学の場合42%に達します。病院収入を増やしながらかつ決められた予算でやり繰りしなければなりません。その一方で、様々な評価のための業務が増えており、全職員評価疲れのため大学本来の使命である教育・研究・社会貢献が十分に果たせないのではないかと懸念しています。

政権が変わり教育や医療に関する政策も大きく変わろうとしているようですが、その中身に関しては先行き不透明です。民主党の掲げる「コンクリートから人へ」という政策方針から考えると、教育・医療関係は比較的有利ではないかとの憶測が流れましたが、現実には厳しそうです。運営費交付金の更なる減額が検討されているようですが、これに対しては引き続き反対意見を述べていきたいと思えます。

法人化後の佐賀大学では長谷川前学長の下、大学憲章の制定、第 期中期目標・中期計画の策定と実施（評価）中長期ビジョンの策定がなされました。佐賀大学憲章には、「魅力ある大学、創造と継承、教育先導大学、研究の推進、社会貢献、国際貢献、検証と改善」が明記され、佐賀大学中長期ビジョン（2008 - 2015）では「地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して」と謳われています。これらを実現するには全学一体となった「夢」と「戦略」を持つことであり、教職員に夢と活力があって始めて教育・研究・社会貢献の実現が可能で、良い教育を行い誇るべき研究成果と社会貢献が達成できれば、学生に選ばれ、卒業生の誇りになり、発展し続ける大学になると確信しています。

もとより浅学非才の身ではありますが、同窓会の皆様のご支援ご指導をいただきながら佐賀大学の発展に尽力する所存です。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



福岡地区支部

平成21年7月10日、福岡市内の「セントラルホテルフクオカ」で福岡地区の全学同窓会が開催されました。

本部から久間佐賀大学同窓会会長をはじめ、各学部同窓会の代表や大学関係者の11名の来賓の方々のご参加をいただき、63名の支部会員と合わせ総数74名で和やかに楽しいひとときを過ごすことができました。

今年度当番幹事（昭和43年入学経済）の高石彰氏の司会でスタート。

久間会長の大学や同窓会の状況等の挨拶をいただき、文化教育学部宮島会長の音頭による乾杯で交流劇が始まりました。久しぶりに再会の出席者は酒盃

を交わしながら歓談し、今回も途中「シャッフル（席替え）」により新たな交流の輪が広がり、恒例の「拳頭言」、「校歌斉唱」でクライマックスを迎えます。出席者一同時が経つのを忘れ、懇親を深めることができました。次年度、昭和44年入

学の当番幹事の皆さんの設営に期待し、次回の再会を約しながらお開きとなりました。

常任幹事 税 田 健 司（経済・55卒）



大分支部・豊後はがくれ会

豊後はがくれ会の総会と懇親会を、平成21年11月14日(土)、大分第一ホテルにて開催した。

今回、会員の参加は26名（昭和34年～平成7年）で、久々の女性2名の参加もあり大いに盛り上がりを見せた。

来賓として、本部から久間会長、松尾副会長、光岡理事長、小池理事、中島理事の5名の方をお迎えし、佐賀大学や同窓会の近況や活動等をうかがう事ができた。

今年度の支部活動は、恒例の同窓会ゴルフコンペの開催だけであったが、来年度は再度花見等の企画をしながら、魅力ある同窓会にしたいと考えている。

総会に続いて、懇親会は河野克己さん（農学S36年）の乾杯の音頭で始まった。

大分の美味しい料理を堪能しながら、ビール・酒・焼酎と飲み干し、昔話やお互いの近況報告で、楽しく語らい有意義な懇親会となった。

最後に神取禎久さん（農学S62年）の万歳三唱でお開きとなり、参加者一同、来年の再会を誓い合って、和やかなうちに会を終了した。

事務局長 牧 野 巧（理工・50卒）



佐賀大学大分県支部総会
平成21年11月14日 於：大分第一ホテル

東海支部

平成21年11月29日昼、東海支部総会を出席者18名で名古屋駅前のホテルで開催しました。

佐賀から佐大同窓会長の久間さん、副会長の梅崎さん（楠葉同窓会長）、松尾さん（農学部会長）、田中さん（理工学部会長）のご参加をいただきました。久間会長から大学の現況と同窓会が大学に物心両面から可能な限り支援協力をしていると具体例をもって説明があり、同窓会への認識を新たにしました。

いよいよ懇親会である。副島さん（元支部長・文理35卒）の音頭でスタート。お酒が入り和気藹々の雰囲気の中で自己紹介です。

未曾有の経済不況下で大奮闘の現役組、家庭菜園に勤しむ悠々自適の方々の紹介、本日の紅一点M子



だより



さん（教育44卒）は教職定年後、農業に専念しトラクターをも運転するとのこと、小柄な彼女のパワーに驚嘆する。Kさん（文理40卒）は年100回のゴルフラウンドを今後10年間継続したいとの意気込みに脱帽する。

宴もたけなわ、いよいよ巻頭言の出番である。不知火寮出身の高松さん（文理37卒）が声高に吟じ、寮歌「南に遠く...」に乱舞す。遠き学生時代の数々の思い出をかみしめながら、校歌「楠の葉の...」を高歌放吟し、同窓の絆を深めていった。

お互いの健康を気遣いながら次回の再会を約して散会した。

東海支部長 林 利 幸（文理・37卒）

Creative21

「21世紀の佐賀大学を考える」

第30回例会（平成21年9月25日開催）

「経済学部の現状と将来」

経済学部長 富田 義典 氏



第17回を迎える「佐賀県青春寮歌祭」が、平成21年11月28日(土)、佐賀市交流センター「エスプラッツホール」で開催されました。

今年は旧制第三高等学校の初参加もあり、会場は熱気に包まれ、参加者は昔にタイムスリップして寮歌・校歌を声高らかに歌い上げました。

採用内定者と同窓会・ キャリアセンターとの懇談会

平成21年11月11日(水)大学会館2Fにおいて12時50分から採用内定者28名が各ブースに分かれて、3年次学生を対象とした就職希望者にそれぞれの企業・官庁から採用内定を受けるまでの就職活動の仕方など、その体験をもとに助言指導する場として、大学（キャリアセンター）主催の就職体験報告会が実施されました。

この会も、学生の就職支援対策の一環として今回で5回を数えます。追年、先輩の助言、指導を求める就職希望者の参加者は多くなり、今回は前回を40名上回る125名程度だったと聞き及んでいます。

これに続いて、16時30分から同窓会主催の採用



内定者と同窓会役員、キャリアセンター職員との懇談会が催されました。同窓会からは、光岡理事長、副島事務局長等が出席し、理事長がこの会は報告者の慰労と、同窓会と報告者らとの絆を深めることが目的である旨を話し、同窓会の概要とその活用などについて要請しました。軽食を共にしながら懇談し、なごやかなうちに17時20分頃散会しました。

同窓生の徳安講師、日展で特選受賞



徳安和博講師近影

徳安和博講師については、先般、この「楠の葉」において、同窓の新人教員としてご紹介したばかりですが、同氏は、この度、第41回日展(平成21年度)の第3科彫刻部門で特選を受賞しました。また、徳安講師の特選は42歳という若さでの受賞ですから、今後の発展がおおいに期待されています。

右の写真が、同氏の今回の日展出品作品ですが題名は「Spiral」です。日展における特選の「授賞理由」は「題名にある通り、ひねりのあるポーズにより、量塊の螺旋状のつながりが強調されていて、それが独特の空間の広がりを作り出している。リズムカルな動勢感の中に、静謐で格調高い精神性を秘めた優作である。」となっています。

古来、彫刻の魅力の一つは「柱のような立性の強さ」をいかに見せるかということにあります。同氏の作品は「量塊の螺旋状のつながり」によってそれを強調しているように見えます。筆者は、たまたま上京した機会に今回の日展を見ましたが、同氏の作品は「立性の強さ」においても、「空間の広がり」においても、日展の会場で他を圧倒するものとなっていました。

また、徳安講師は、中学校、高校の教師経験もあることから、学生の指導にも力量があり、同氏の彫刻教室から昨年、今年と連続して日展に入選した学生もいます。また、同氏は学校教育にも理解が深く、

幼児から高校生までの佐賀県造形教育界においても、自作を教室に持ち込んでの鑑賞学習など、具体的な貢献をしてくださっています。今後、同氏の益々の多面的な活躍を期待したいところです。



「Spiral」日展特選作品

佐賀大学経済学部と楠葉同窓会との 意見交換会

11月11日(水)、恒例の標記意見交換会がホテルニューオータニ佐賀において18時30分から開催された。

経済学部からは富田学部長、平地副学部長、山下副学部長、畑山教育委員長、橋本事務長、キャリアセンターから木島主幹が参加され、同窓会からは梅崎会長外6名が参加した。

富田学部長からは挨拶の中で大学の機関別評価については訪問調査を受けて評価委員との厳しいやりとり等があったが、結果としては満足 of いく評価を得ることができたこと、またインフルエンザによる学園祭の中止等について最近の状況報告をいただいた。

キャリアセンター木島主幹からは、10月1日現在

の就職内定状況は厳しい経済環境を反映しており、経済学部においては、就職希望者157人のうち105人が内定をみているものの内定率66.9%は前年同期86.2%と比較し、19.3ポイントの減でありかなりの苦戦を強いられているとの報告があった。

意見交換の主な対象としては在学生の勉学その他の活動状況、学生気質等について、また国際化時代に対応していくための語学教育の強化の必要性等も話題となった。

中心となる議題としては、経済学部が楠葉同窓会に求めることについて、また同窓会として学部に貢献できることは何かということであった。現在全学的に実施中のキャリアデザイン講座の外にも協力可能なことを検討したいとする方向性が出る等今後の活動に期待感を抱かせる意見交換会であった。

文責：宮原 義幸(42卒・法)



保健所と新型インフルエンザ対策について

佐賀県鳥栖保健所長 中里 栄介

21年12月現在、新型インフルエンザが大流行し国内の死者は百人を超え、最近はワクチン接種等について多くの報道がなされています。

保健所はこの新型インフルエンザ対策に大きく関与していますが、その活動については余り報じられることはなく、世間のイメージは未だ狂犬病の捕獲といったものかと感じます。そこでこの場をお借りして、公衆衛生行政の縁の下での力持ちである保健所の活動と新型インフルエンザ対策への関わりをご紹介します。

まず保健所には、医師(保健所長)他に保健師・看護師、放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、薬剤師の他獣医師等多くの職種が勤務し、健康に関する様々な仕事をしています。その仕事は大きく対人部門と対物部門に分けられ、対人部門としては、HIV(エイズ)やウイルス性肝炎の検査や相談、精神科領域の救急患者への対応や母子保健等、直接住民の健康に関するものがあります。もう一つの対物部門としては、食品や環境衛生に関する業務で食中毒発生時の対応等が挙げられます。他にも医療機関への立ち入りや災害発生後の心の相談等の健康危機事例への対応が保健所の活動としてあります。

21年4月末に発生した新型インフルエンザは重大な健康危機事例であり、その発生以降、保健所は相談や調査、検査等の様々な活動を行ってきました。

まず5月に検疫で国内の最初の患者が発見されま

したが、保健所は検疫所と連携し新型インフルエンザが流行している国からの帰国者に一定の期間、電話による健康観察を行ってきました。国内で感染が広がりだしてからは、新型インフルエンザが疑われる患者に対し、感染症指定医療機関や衛生薬業センターと連携し、ウイルス遺伝子検査(PCR検査検体搬送)や患者及び接触者からの聞き取り調査(疫学調査)を行ってきました。また、県の発熱コールセンターと共に、新型インフルエンザとはどんな病気か、どんな症状か、大阪旅行後に熱が出たが大丈夫か、どこの医療機関を受診したらよいか、検査を受けたいがどうしたらいいのかなどなど、本当に多くの相談への対応を行ってきました。

新型インフルエンザはその名のとおりの新しい病気で、当初はその病気の正体、例えば病原性(毒性)や感染力、症状等が分かりませんでしたので、高病原性(=強毒性)を想定した対応を行い、その後情報が入ってくる中で対策を変更していくという手探りの状態が続きました。このことで、多くの方々が混乱し心配されましたことにこの場をお借りしてお詫び申し上げますとともに、実は未知の病気、特に未知の感染症への対応は「おぼけへの対応」と同様、最初は手探りで非常に難しいものであることをご理解頂ければと願っています。

今、巷では新型インフルエンザワクチン接種や学級閉鎖等に関し医療機関や接種を希望される方々の間で混乱が起きていて、このことに関して保健所にもたくさんの相談が寄せられています。このことは、限られた(全国民分ない)ワクチンをどのように優先順位をつけて分配するかという課題とその接種スケジュールを変更していること等に起因する問題ではありますが、背景には日本の健康危機管理の観点からのワクチン政策をどうするかという問題もあります。また学級閉鎖は感染拡大防止と教育をどう両立させるかという問題もあります。その詳細には触れませんが、現場としては少しでも皆様に混乱が生じないように、頑張っただけで対応して参りたいと思います。

以上、五月雨になりましたが、保健所の活動の概要と新型インフルエンザ対策への関わりをご紹介します。このことで少しでも保健所が皆様の身近な存在となり、皆様の健康増進の一助となると幸いです。



21年10月20日 奈良市全国保健所長会にて
押谷先生(写真右)と筆者(中央)

(現東北大学教授で新型インフルエンザ対策の専門家である押谷氏は、前職はWHO 医務官としてSARS等の陣頭指揮にあられたが、同時期に筆者は厚生労働省在籍中であり、押谷先生に多大なる指導をたまわった)

卒業生へのメッセージ 10

エネルギー保存則

物理科学科 学科長 平良 豊

同窓会の皆様、始めまして。今年物理科学科の学科長を務めている平良です。このページへの寄稿が今年物理の担当ということで、当方にお鉢が回ってきました。本当のところ書くことが見つからず、ねた探しに苦慮しています。そんなおり、テレビでは連日事業仕分け人の仕事を取り上げられ、無駄なことが槍玉にあがってつぎつぎと仕分けられています。この寄稿のページも仕分けしてもらったら、きっと...と思いつつ、でもそうはいつても、この仕事から逃れられそうもありませんから、筆を進めることにします。気楽な駄文にしばしお付き合いください。

さて、昨年のリーマンショックを発端に、世界規模での経済危機が到来して、日本の経済も大変な打撃を受け、学生の採用を見合わせるなり、人数を削減したりする企業が相次ぎ、当学科でも例年に比を見ることのできないほどの、内定者の少なさで現在のところ推移しています。これからの採用の改善もそれほど期待できず、最悪の就職率になることは確実のようです。

以前の日本には貧しいながら、互いを支えあうという豊かな精神世界があったように思います。たとえば、企業における社員の終身雇用形態にそれを見ることが出来ます。いつのころからか、その雇用形態は年功序列などと非難を浴び、実力本位主義という美辞麗句のもと葬り去られてしまいました。そして現代は再構築(リストラクション)という錦の御旗を掲げて、容赦ない人員削減(リストラ)の嵐が社会に吹きあれて、人と人とのやさしさや絆をずたずたに破壊しています。すべてが効率、すべてがお金という感覚から、投資ファンドという魔物が弱い立場の人々を苦しめています。確かに才能や才覚のある人は、より多くのことが効率よくできるのかもしれないが、その人一人の実力だけでは、人の何十倍何百倍の仕事ができるはずはなく、その人の周りの人々や社会あってのことだと思えます。グローバル化という名の下にアメリカの弱肉強食主義を輸入した結果、残念ながら一部の人が富み、多くの人が貧困になり、格差は大きくなる一方です。20年前にはアメリカにはホームレスという人たちがいることに驚いていたけれども、いまや日本でもたくさんの人々がホームレス化しています。これらは労働行政の失政に他ならないと思えます。今年の夏の政権交代は企業の都合にあわせて雇用形態を流動化させ、派遣という人から労働力のみを買うことを許した政治にやっと人々はノーを突きつけたのかもしれない。労働者はまず人なのだという観点を大事にしてほしいものです。

窓際族というなつかしい言葉を思い出します。昭和の時代には、余剰人員を抱えた企業が、すぐには人員を整理することなく、企業内に抱えこむ努力をしていました。松下電気の創業者の松下幸之助は社員は会社の宝であり、家族であるとして社員のことを大事にしたそうです。その幸之助が資財を投じて松下政経塾をつくり、明日の未来のための社会のリーダーとなる人材育成を創めたことは皆さんもご存知でしょう。人を思いやる心が幸之助にはあったように感じます。成功を収めたから、その報酬は社会に還元しよう。その方策として、人を大事にするためにはよきリーダーが必要であると考えてのことでしょう。なんとすばらしい観点でしょう。先見性に富んだ発想です。幸之助なき後も、政経塾は今もリーダーとなる人々を社会に送り出しています。人を大事にし、支えあう精神を受け継いだ高き志を持った人々が社会の広い分野で活躍すれば、きっと昔の日本の良き時代が取り戻せそうな期待がちょっぴりできてきて、どこか心が安らぎます。

円がじりじり上昇しています。なぜだろうと思ったら、新聞にドバイショックの文字が。そういえば、ちょっと前に報道でドバイの無軌道なバブルの話があります。石油で稼いだお金を金融に転換して、世界のお金が集まっているとのことでした。考えられないほどの豪華な建築物のラッシュが起こっていました。そしてついにその一部の金融機関が破綻状態となり、またまた、ファンドがドバイから脱出して円買いに走っているそうです。ドバイショックが世界の経済に大きな悪影響を与えなければよいのですが、と不安にかられます。どうして人はこんなに同じ過ちを繰り返すのでしょうか。

これを読んでいる同窓会の中には起業されて活躍されている方もいらっしゃるかも知れない。ファンドに投資してたんと稼いでいる方もいらっしゃるかも知れません。そんな方からすればなんと甘ったるい考えよと思われるかも知れません。でも考えてみてください。物理には「エネルギー保存の法則」というのがあります。物理の根幹をなすこの法則はエネルギーがどんなに姿を変えようと増えもせず、減りもしないと主張しています。富もエネルギーみたいなものです。多少の増減はあるでしょうがほぼ限られているのです。それを誰かが多くを得れば、割をくう人もいるのです。成功して財を成した人は、その人の実力や努力のせいだけではなく、社会の助けがあったからなのだ。格差を是正し社会を平穩に保つことは大事です。社会的弱者や少数の意見に配慮を忘れない優しい心が今必要とされていると思えます。

三 つ の 事



佐賀大学名誉教授 近藤 栄造

やりたい事、やりたくない事、やらなければならない事。一日24時間の中に、これら三つの事が、ゴチャゴチャと同居している。やりたい事だけやれば良い恵まれた人は希有。やりたくない事をしないで済めば良いが、そうはいかない。年齢、経験、状況などによって重みは変わるけれども、生活や職務のために、やらなければならない事がある。それは、生き甲斐になり、ストレスにもなる。どうせやるなら、ストレスではなく励みにした方がベター。在職中は、そう思って努めたが、結果が伴わなかった。

私は、平成21年3月末日に退職した。退職後は、在職中に担っていた、やらなければならない、義務的な事は消えた。やりたい事をやる時間を持てるようになった。同時に、問題が生じた。さて、何がやりたい事なのか。やりたい事が沢山あり過ぎて、選ぶのに困るのではない。やりたい事が何もなくて困るでもない。適度にあるやりたい事のバランスを取れば良いだけの話だけれども、これが、案外と難しい。難しい問題は、難しく考えると、解決が難しくなる。簡単に考えて、やりたい事を適当にやることにした。

今やっていることは、大きく分けて、三つ。一つ目は、退職前の数年間にわたってサボっていた、線虫についての本・文献を読むこと。ただし、授業や講演や論文執筆のために読むという邪念は捨てた。二つ目は、専門外の面白そうな本を読むこと。読む目的などはあまり考えない。考えるのは、読んだ後にする。三つめ目は、運動をすること。これにハマった今は、運動が、生活リズムを作る時計になった。

チャリンコ(サイクリング)、ウォーキング、庭仕事(庭仕事)が運動の3本柱。自動車免許を持たない私にとって最速の移動手段であるチャリンコは、佐賀平野を走り回るのに、いたって便利。そして、エコである。

チャリンコで走り回ることには、第二の目的がある。それは、佐賀市の史跡・風物などの発見。毎回、適当なテーマを設けて走る。目についたことをデジカメ写真に収める。すると、どうだろう。見どころがいっぱいある。40年も佐賀に住んでいながら、ほとんど見ていなかった自分を発見して驚く。あちこちに、地域おこし、地域再生のための親切な案内板が立っている。屋内の見学スポットには、パンフレットが用意され、展示があり、ビデオによる説明がある。至れり尽くせりである。しかし、惜しいことに、訪問者が少ない。発信者と受信者の間にミスマッチがありそうだ。なんとなく、大学教員と学生との間のミスマッチとダブって見える。これは、思い過ごし、偏見か、幻覚か。

同窓会のメンバーは、佐賀市にある佐賀大学という場を共有した仲間であるが、在学時の状況を反映して、佐賀市・佐賀大学との関わり方は様々だったに違いない。卒業後は、多くのメンバーが佐賀市以外の地で生活している。もし、時間に追われる生活を余儀なくされているなら、リフレッシュに役立ってエコな、自分の目・価値観に基づく「居住地域の良さ発見」はお買い得です。

同窓生の職場 12

佐賀県農業試験研究センター

佐賀県農業試験研究センターは、県が設置している五つの農業系試験研究機関の一つで、佐賀市川副町南里にあります。職員数は83名（内農学部同窓生28名）で、水稻・麦・大豆・野菜・花きの品種改良や栽培技術の開発等に取り組んでいます。約22haの広い敷地には、農業大学校、佐城農業改良普及センター、農業技術防除センターが併設されており、また、三瀬村と白石町の2カ所に当センターの分場が設置されています。

当センターは、明治33年（1900年）に「佐賀県農事試験場」として誕生し、今日まで約110年の歴史を積み重ねてきました。この間、時代の要請にこたえて、農業分野における技術革新の拠点として佐賀県農業の発展に大きく貢献してきました。



最近の研究成果の一部を紹介しますと、まず、水稻品種「さがびより / 佐賀日和」の育成があげられます。本品種は良食味で、温暖化による品質低下が少なく、収量も多いことから、県民の期待を背

負い昨年デビューしました。次に、イチゴ品種「さがほのか」の育成です。本品種は、消費者・生産者ともに評価が高く、全国的に栽培されており、栽培面積は全国第2位となっています。お店で両品種を見かけられましたらお求めいただき、当センター発佐賀の味覚を味わっていただければ幸いです。この他、集落営農組織で活用されている地図情報システムの開発、安全・安心な農作物生産のための減農薬栽培法の開発、本県オリジナルブランドとなる花き品種の開発などがあげられます。



なお、当センターは、本県農業の歴史を振り返ることができる農具等を展示した農業歴史資料館を併設しています。近くにおいでの際は是非お立ち寄りください。

松尾 孝則（農学部 昭和52年卒）

キャリアデザイン講座

第5回目となる「キャリアデザイン講座（自分発見講座）」が10月7日に開講いたしました。初日は、池上キャリアセンター長の開講挨拶、副島佐賀大学同窓会事務局長の挨拶に続き、キャリアセンター緒方教授によるガイダンスが実施されました。

今回も例年と同様3年次・2年次学生を中心に、290名が受講届けをしています。

昨年秋のリーマンショック以降、求人倍率は前年より0.52ポイント低下し1.62倍、企業からは「厳選採用」の言葉が聞かれる厳しい就職環境となっており、学生の受講態度にも熱が入ります。

佐賀大学同窓会は、今後も、在学生のキャリア支援を続けていきたいと考えています。

キャリアデザイン講座（自分発見講座）日程

実施月日	内容	講師
1 10月7日	ガイダンス(講義の進め方)	
2 10月14日	理工学部出身の先輩に聞く	家村 薫 (H16・機能物質) TOTO(株) 高分子技術センター
3 10月21日	理工学部出身の先輩に聞く	平田 裕一 (H20・都市工学) JR九州 大分事業部大分車掌センター
4 10月28日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生(就職内定者) 5名
5 11月4日	文化教育学部出身の先輩に聞く	田本 正一 (H13・学校教育) 佐賀市立春日北小学校
6 11月11日	文化教育学部出身の先輩に聞く	石橋 幸子 (H17・国際文化) (株)デンソー九州
7 11月18日	経済学部出身の先輩に聞く	堤 隆秀 (H15・経済システム) 九州電力(株) お客様本部営業部
8 11月25日	経済学部出身の先輩に聞く	山口 華代 (H16・経営法律) 福岡県警 早良警察署
9 12月2日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生(就職内定者) 5名
10 12月9日	医学部出身の先輩に聞く	吉田 和代 (S63・医学) 佐大医学部附属病院卒後臨床研修センター
11 12月16日	医学部出身の先輩に聞く	廣重 有美 (H11・看護) 佐賀県庁
12 1月13日	農学部出身の先輩に聞く	水田 和彦 (S51・農業土木) 佐賀農業高等学校
13 1月20日	農学部出身の先輩に聞く	神崎 夕紀 (S61・農芸化学) キリンビール栃木工場醸造担当
14 1月27日	総括(学生の質問に答える)	
15 2月3日	定期試験	



第31回 むつごろう祭

10月9、10、11日の3日間に渡り、佐賀大学医学部第31回むつごろう祭が行われました。今年のむつごろう祭のテーマは“RED IT BE!! エネルギッシュでごめんねごめんね～”です。情熱のままにむつごろう祭を作り上げていこうという気持ちを込めて、テーマカラーの赤とともに、このテーマを掲げました。今年のゲストは、全国で活躍するバンド、マキシマムザホルモンや世界でも有名なDJ KAORI、芸人のもんいいと大西ライオン、国立感染症研究所より安井良則先生をお招きし、これらのイベントや講演会はおおいに盛り上がりました。その他にもミスコンなどのステージ企画、バルーン係留、キッズスクエア、献血、救急車展



示やユニセフによる展示などの企画も子供から大人までたくさんの方に来ていただき、大成功を収めたと思います。この度は、佐賀大学同窓会からの寄付を賜りまして、むつごろう祭実行委員会一同、誠に感謝しております。

第12回 佐賀大学 大学祭(本庄地区) 中止

平成21年10月31日、11月1日の両日に開催が予定されていた第12回佐賀大学大学祭は、学内における新型インフルエンザ感染拡大の影響により中止となりました。

今回は中止という結果になってしまいましたが、佐賀大学同窓会の皆様には大学祭進行の円滑のために多くのご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

来年の大学祭につきましてもご助力賜りますようお願い申し上げます。

佐賀大学学園祭中央実行委員会
委員長 野崎 大地

大学及び同窓会の動き

- 7 .1 佐大同窓会会報「楠の葉」No.11 発行
- 6 佐賀大学校友会「代議委員会」
- 8 佐大同窓会「第4回代表役員会」
- 10 福岡地区支部総会・懇親会/セントラルホテルフクオカ
- 13 佐賀大学校友会「役員会」
- 8 .11 佐賀大学オープンキャンパス
- 9 .2 単位提供講座「キャリアデザイン」打合せ会
- 9 佐大同窓会「第5回代表役員会」
- 25 第30回「クリエイティブ21」/佐賀大学経済学部 富田義典氏
- 29 長谷川学長及び理事退任記念パーティ/ニューオータニ佐賀
- 10 .7 単位提供講座「キャリアデザイン」開講ガイダンス
- 7 佐大同窓会「第6回代表役員会」
- 9 第31回むつごろう祭(鍋島キャンパス) ~11日まで
- 14 単位提供講座キャリアデザイン/講師 家村 薫氏(理工学部)
- 14 佐大同窓会「秋期定例役員会」
- 21 単位提供講座キャリアデザイン/講師 平田 裕一氏(理工学部)
- 28 単位提供講座キャリアデザイン/在学生(就

- 職内定者4名)
- 11 .4 単位提供講座キャリアデザイン/講師 田本 正一氏(教育学部)
- 6 佐大同窓会会報「楠の葉」No.12 編集会議
- 11 単位提供講座キャリアデザイン/講師 石橋 幸子氏(教育学部)
- 11 佐賀大学同窓会と就職内定者との懇談会/大学会館
- 14 大分支部総会・懇親会/大分第一ホテル
- 18 単位提供講座キャリアデザイン/講師 堤 隆秀氏(経済学部)
- 25 単位提供講座キャリアデザイン/講師 山口 華代氏(経済学部)
- 28 第17回佐賀県青春寮歌祭/エスプラッツホール
- 28 諫早支部役員会・懇親会/割烹あたご
- 29 東海支部総会・懇親会/名鉄ニューグランドホテル
- 12 .2 単位提供講座キャリアデザイン/在学生(就職内定者5名)
- 9 単位提供講座キャリアデザイン/講師 吉田 和代氏(医学部)
- 9 佐大同窓会「第7回代表役員会」/佐嘉神社記念館
- 16 単位提供講座キャリアデザイン/講師 廣重 有美氏(医学部)